道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

無事に作業終了！まっちゃんありがとう！

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

涼を求めずにはいられない今年の異常な猛暑。ここ信州でも30℃超えが続き、子育て中のツバメも人間も早くからグロッキー気味。ライダー仲間は、ビーナスラインを筆頭に各地の高原道路を目指して繰り出しているようですが、私はなかなかツーリングに行けません。なぜかと言うと、庭仕事が終わらないからです。

信州に移住して8年ですが、草も樹木の葉も食べてしまうヤギやポニーがいなくなってから4年も経つと、低木の庭木は大木に成長し、あっという間に2階の屋根を越してしまいました。その数、かるく30本。手が届く株だったツツジやサツキは、2～5メートルの巨大な塊に大変身。大家さんが手がけた庭には、何十種類もの園芸種が、こちらも軽く50株。信州に戻るつもりはないという大家さんはとても豪快な方で、「どれ切ってもいいよ。好きにやって」と仰るものの、どれも可愛いので簡単には判断がつきません。そして、かつては動物たちを放牧していた敷地は2千坪ほどあり、草刈りで夫婦で毎日のように芝刈り機と刈り払い機を稼働させますが、こちらもエンドレス。大好きな作業なのですが、「一生草刈りやって終わりそう」と思えるほどの重労働に、知人たちは「畑にすれば」と言いますが、元々お米づくりや畑から始まったところもあるので、ほどほどには出来ないのは目に見えています。体が続く限りはマメに刈り込んで暮らしますが、ツーリングはまだ遠そう。

まずは松の下枝払い。2階から見てもこの大きさ！周りはサクラ、シャラノキ、カシワ、ヒヨクヒバ、コウヤマキなど。

巨大六に伐採で出た枝を運んではチェンソーで細かく刻む。軽トラで10回分は運んだかな。

神経と体力を使う山仕事。でもすごくいい顔！普段の足は、カワサキのKSR110とZRX1200R。

いつかは終着点が見えてくるのかもしれませんが、先日、とにかく最初の一歩を踏み出してみました。間伐です。一番気になっていたアカマツの大木は、かるく屋根を超えて冬の日差しを遮っており、隣のサクラやコウヤマキを押しやっていました。イチイの大木は、冬の坂道を凍らせる要因でした。人間の都合ではありますが、明治神宮の森のように手を入れずに生態系を作ってくれそうもないので、やっちゃいます！

伐採担当は、昨年一本を伐採してくれた地元松本のライダー、まっちゃんこと松浦俊昭さん。34歳の時に関西から長野へ移住し、7年間林業に携わっていた元プロフェッショナルです。現在は介護福祉士として働いていますが、「いつでも手伝ってあげるよ」という頼もしい味方。さっそく家の横の3本の大木を伐採してもらいましたが、脚立に乗っての枝落としも、狭い林での作業も、やっぱり私たちには無理でした～。倒れる方角も完璧で、頼んでよかった！　光が差し込む林には、気持ちのいい風がそよぎはじめました。伐採した木は、薪ストーブの薪用にと、バイク仲間が全て持っていってくれました。数えてみたら、マツは樹齢33年、イチイはなんと55年！大家さんが20歳代に植えたものでした。思わず手が合わさります。

薪ストーブの材料はひっぱりだこ。みんな喜んで持っていってくれます。樹木さん、今までありがとう。

剪定で大量に出た枝は、敷地にあった巨大な穴（蔵を壊した時にたまたまできたとか）にチェンソーで細かくしながら埋め戻しました。穴は3畳部屋より大きかったので、永遠に埋められたらいいな。なにせ敷地で燃やして山火事を出すのが怖かった私は、ここで出た剪定枝は、可燃ゴミの日にビニール袋に詰め込んで毎週数個出すか、軽トラでクリーンセンターに運んで有料処分（年間約3万円ほど）していましたが、この度の作業で出た量はさらに膨大で、大木の枝3本で軽トラ満載になるほど樹木は質量があり、処理の限界でした。我が家はオール電化なので、熱源にできないのがほんとうに残念なのですが、穴に救われました。

草刈りも剪定もいらなかった草食動物との暮らし。あと10年若かったらもっと続けたかった無駄なし共生生活♪

次回はまっちゃんに、さらに5本の伐採と、時期は微妙ですが巨大化した木々の剪定（脚立で手入れできる高さにしたい！）もお願いすることになりました。鳥たちも喜ぶ自然風な林を目指して、しばらくは庭仕事に精を出します。しかし人生は面白い。私がかつて30代の頃に夢中になったのはイングリッシュガーデン（をさらに自然風にした庭）だったのですが、ここは完璧な和風庭。和洋折衷の礼子風を目指します♪

都市計画の中の街路㉚
ストリート・トポニミー事始め（その6）

東洋大学国際学部・准教授　志摩憲寿

今回は元号で地域づくりに取り組む山口県小郡地域。ここでは、「明治通り」「明治西公園」「大正通り」「昭和通り」「昭和橋」「平成公園」に続いて、2020年には新しく開業した県道を「令和通り」と名付け、2021年には住居表示の変更により「小郡令和一丁目・二丁目」が誕生、さらに2022年には「小郡明治一丁目・二丁目」「小郡大正町」「小郡令和三丁目」と元号町名が増えました。

元号を地域づくりに活かそうとするのは地元の「おごおり地域づくり協議会」。2010年に設立された協議会には、自治会、婦人会、老人クラブや子ども会、小中学校PTAをはじめとする小郡地域の主要19団体が会員として名を連ねており、地域住民は誰でも加入できるそうです。「『出会い』『つながり』共に支え合うまちづくり」「心つながる笑顔と幸せあふれるまち」をねらった「第3次おごおり地域づくり計画」（2021～2025年度）の下、地域振興、地域福祉、安心・安全、環境づくり、地域個性創出という6つの部会・実行委員会が中心となって地域づくりに取り組んでいます。なかでも協議会によってまとめられた「おごおり『5元号』見て歩きマップ」（図）には、旧山陽道や旧石州街道といった江戸時代の街道も含めて元号通り・町名の中に、明治元年創業の藤本金物店から令和3年オープンのKDDI維新ホールに至るまで、明治時代に由来する9施設、大正6施設、昭和7施設、平成2施設と令和1施設が紹介されており、元号通りを歩きながら地域の歴史を楽しむことができるでしょう。

どこよりも早く令和通りが誕生した小郡地域ですが、元号と地域との関わりは古く明治時代に遡るそうです。明治33年に山陽鉄道の小郡駅（現・新山口駅）が開設されると街道と駅を結ぶ通り（現・市道新山口駅通り線）は「明治通り」と呼ばれ、大正2年に整備された小郡駅と小郡町役場を結ぶ直線道路（現・市道大正町線）は「大正通り」、昭和に入って完成した国道（現・県道335号江崎陶線）には「昭和通り」と呼ばれるようになりました。そうなると、平成19年に小郡駅の南側の開発が進むと「小郡平成町」と元号が町名に付されるのは「自然」だったとのこと、令和通りや小郡令和が生まれた経緯も頷けます。このように元号が通りや町名に用いられるのには、小郡地域には新しいものを積極的に取り入れる気風があり、新しい時代にできたものを元号で象徴したとの地元の見方もあるようです。

どの地域にも積み重ねられた時間が地域のアイデンティティを形成しています。小郡地域で名付けられた元号通りや町名はまさに地域の時間を繋いでいるということになるでしょう。

図　おごおり「5元号」見て歩きマップ：元号通りを歩きながら地域の歴史を楽しみたい（出典：おごおり地域づくり協議会）

参考文献：おごおり地域づくり協議会（https://ochikyou.jp/executive-committee/）、「『元号のまち』活性へ起爆剤」（読売新聞山口版2020年11月30日朝刊）

ハッと思いました

梅雨を感じることなく、例年より早い真夏日、猛暑の到来。ぐったりしている間も無く、豪雨・強風を伴う台風の出現です。三年目を迎えるコロナ禍での生活リズムの変化もあって、スッキリしない毎日です。

そんな中、毎日報じられる高齢者が関わった交通事故ニュースを目して、思い出す事があります。

あれは遥か昔？昭和の頃の事だったかな。タクシーに乗車中、『前の車との車間距離が近いな。ブレーキをかけるタイミングが少し遅い気がする。チョッとドキドキ！』そこで、軽く世間話のきっかけ程度に「この車、いい車ですね。」と口火を切ったのです。すると運転手さん曰く「長年タクシー運転手をやってるけど、最近のクルマはブレーキの効きがとてもよくなりましたね・・よく止まりますよ。」ゾワゾワした気持ちで「お幾つになられますか？」「○○歳になります。クルマも運転も好きだから・・。」とかなりのご高齢。

『車を運転しながら死ねたら本望だぁ』と言ってる様に聞こえた私は、「あっ。寄るところがあった。その先の信号で止まって下さい。近くですみませんでした。」

あれから、ンッ十年経った今、あの時の運転手さんの年齢に近づきつつある我が身を客観視して、自分は自分で思っているほど、体力、視力、聴力、集中力、判断力など備わっているのだろうか？と、いつも問いかける事にしています。

更に思うのが、ハンドルを握る際、走る曲がる止まるを自身の能力以外の技術の力（現状ではあくまでも運転支援機能です）を当初から期待して車を運転してはいけないと言う事。クルマは生活の足、生活に不可欠な道具には間違いありませんが、だからこそ、勝手に動き回る足や、使いこなせない道具は使ってはいけないのでは。一○○％完璧な自動運転が出来ない限りは。